

2026 年 6 月 10 日

学校法人三幸学園
広島ビューティー&ブライダル専門学校
校長 大原 隆 殿

学校関係者評価委員会
委員長 田中 省早

学校関係者評価委員会実施報告

2025 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 田中 延恵 (株式会社YOU-2 代表取締役社長)
- ② 田中 省早 (第7期卒業生)
- ③ 佐々木 守 (飛鳥未来高等学校 広島キャンパス 教頭)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2026 年 6 月 10 日 (会場 広島ビューティー&ブライダル専門学校 ビューティー館 202 教室)

3 学校関係者委員会報告

別紙「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2025年度 学校法人 三幸学園 広島ビューティー＆ブライダル専門学校 自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者 : 副校長 清 洋介

学校関係者評価報告責任者 : 学校関係者評価委員会委員長 田中 省早

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる」人材を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

前年度、学校関係者評価委員から、昨年度の振り返りと評価委員の意見を踏まえ、今年度はまず学生が安心して学校生活を送れる環境づくりを強化し、退学率の低減を図る。特に面談方法を見直し、マンツーマンに加え少人数グループなど柔軟な対応を行い、相談しやすい体制を整備する。また、授業や行事を通して人間関係の構築を意図的に支援していく。加えて、資格試験については動機付けと授業の魅力向上を図り、データに基づく対策を徹底する。さらに、サロンワークを中心に実践的な技術・接客力の向上を目指す。あわせて、自己理解と職場理解を深めることで、就職後のミスマッチ防止にも取り組む。

① 前年度重点施策振り返り

〈重点施策〉

* 退学率を下げるための改善施策

1. 多様な面談体制の構築

従来のマンツーマン面談に加え、学生の特性に応じて

・雑談形式のカジュアル面談

・オンライン相談

など柔軟な方法を導入する。

教員間で情報共有を行い、学生に適した関わり方を選択する。

2. 早期発見・早期対応の仕組み強化

出席状況・授業態度・表情の変化を教員間で共有し、小さな変化の段階で声掛け・面談を実施。

* 各種資格試験の合格率への施策

1. 動機付けの強化

資格取得の意義を「就職」「収入」「キャリア」に結び付けて具体的に提示

合格者の成功事例共有

2. 授業の魅力向上と理解度別指導

レベル別指導(基礎・応用クラス分けなど)実技と理論を結び付けた授業展開

成功体験を積ませるスモールステップ指導

3. 学習環境の整備

放課後補講・個別指導の充実

模擬試験の定期実施とフィードバック

〈振り返り〉

* 退学率の軽減

- ・引き続き多様な学生に対する配慮と授業方法を検討する。
- ・魅力的な授業づくりをすることの重要性を教員に伝え、学生が抱える不安や悩みを早期に解決できるように、学生の変化に気づき教員間で共有し、対策を講じる。

* 検定合格率の向上

- ・授業や行事において魅力付けや検定に対する動機付けが昨年度よりは改善できた。まずは授業の環境設定やその検定受験に向けての動機付けを実施する。
- ・結果より分析を行い、具体的対策を実施できるよう施策を講じる。

② 学校関係者評価委員会コメント

* 田中延恵委員

新入社員の中でも、精神面で不安を抱えている方への関わり方は難しく、寄り添いながらも、どこまで配慮するべきなのか、現場は判断が難しい。

入社後は、学生と社会人で、環境や意識の違いに戸惑う方も多く、指導方法に正解はないと感じている。

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・保護者連絡アプリを導入し、入学後の教育活動に対する理解促進を目的として、適宜情報発信を行った。しかしながら、アプリ内の閲覧機能が複雑であることから、保護者にとって情報の確認が容易でない点が課題として残った。

② 今後の改善方策

・2026年度においては、入学前より入学生専用サイトを整備し、事前に操作方法や機能への理解を促進する仕組みを構築する。これにより、円滑な情報共有を実現するとともに、学校の教育活動に対する保護者の理解深化を図る。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＊佐々木委員

高等学校では、入学者専用のWEBサイトを活用し、入学前の手続きやスケジュールの把握ができる仕組みが整っている。さらに、入学後もアプリを通じて保護者と学校が連携し、情報を共有できるため、以前の紙媒体中心の情報共有と比較すると、連携しやすくなった。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	3
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

- ・Teams 等の WEB システムの活用により、運営スタッフと教科担当間における情報共有の迅速化は一定程度図られている。しかしながら、情報発信の速度および内容の整理に課題が残っており、円滑かつ密なコミュニケーションの実現に向けたさらなる体制整備が求められる。
- ・新たな人事制度は導入されたものの、評価制度の内容に関する理解が十分に浸透しているとは言い難い。制度の趣旨を踏まえ、運営メンバーが適切に評価され、キャリア形成につながるよう、理解促進の機会を設ける必要がある。

② 今後の改善方策

- ・引き続き Teams を活用し、情報発信の迅速性および正確性の向上を意識した運用を徹底する。
- ・定期的（毎月または四半期ごと）に教科会を実施し、情報共有に加え、日常的な気づきや課題認識を共有する場を設けることで、組織内のコミュニケーションの活性化を図る。
- ・新人事制度の定着に向け、評価基準や運用方法に関する内部研修を計画的に実施し、制度理解の深化とキャリア形成への意識醸成を推進する。
- ・運営メンバーおよび教科担当者を対象としたコンプライアンス研修を実施し、法令遵守および職務遂行に必要な意識の向上を図る。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

* 田中延恵委員

現場と本部の連携は、エリアごとの月 1 回の会議を通じて、組織全体で情報共有が行われている。
また、日常的にメールや電話、LINE グループを活用し、コミュニケーションをとることが多くなった。
今後は、時代の変化にあわせて、連携の方法も柔軟に見直していく必要があるのではないかと。

* 田中省早委員

コミュニケーションツールが増えたことで、使い始めの頃は戸惑う場面もあったが、慣れてくるとその便利さを実感することができ、課題解決までの時間が早く、情報共有しやすいと感じている。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	3
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	3
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

- ・育成する人材像（ディプロマポリシー）をもとにカリキュラムマップを作成している。ただ、修業年限に対応した教育の到達レベルに向けて学習方法の検討や学習時間の中での習熟のレベルの差を埋める施策を検討する必要がある。
- ・毎日登校することが習慣化されていない学生や人間関係に悩む学生に向けて、オンデマンド授業やハイフレックス授業の提供を実施した。資格合格に向けての受講の習慣化に向けて動機付けが必要。
- ・職業教育（実技・実習等）や実践教育（サロンワーク）を実施し、業界やサロンからのある一定の評価をいただいた。今後、更に業界のニーズを踏まえた、学生の実践の場を開拓する必要性がある。

② 今後の改善方策

- ・職業教育（実技・実習等）や実践教育（サロンワーク）を実施し、業界やサロンからのある一定の評価をいただいた。今後、更に業界のニーズを踏まえた、学生の実践の場を開拓する必要性がある。
- ・どこでもいつでも学べるツールとして作成したデジタル教科書や AI 問題集、更に VR を有効活用し、個別最適化した技術の習熟を図る。また教職員においては、あるツールを最大限に活用するメリットを実感してもらえるように、教科会等で活用方法の共有等を適宜おこなう。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＊ 田中省早委員

技術練習は勤務時間外となることも多いが、長時間残ることを希望しないスタッフも多く、動画を撮影して共有するなど、新たな指導方法を取り入れながら育成している。

＊ 田中延恵委員

技術の指導方法自体は、以前と比較しても大きくは変わっていないが、教え方や伝え方は表現を工夫する必要がある、従来よりも難しさを感じることが多い。

新しい技術も次々と登場しており、現場での学びに加え、SNS なども活用しながら知識や技術を習得する機会が増えてきているのではないかと。独立を選択する場合であっても、現場で基礎を学ぶ期間は必要。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・資格取得に関しては、全国の姉妹校との連携や教科担当での教科会で合格率向上に向けて取り組みを実施している。ただ、学生の資格の魅力付けなどの動機付けが必要。早期の段階より、目的や目標を定め学生と相互理解ができる環境整備が必要である。
- ・退学する学生の理由となっている「目標喪失」については業界に関する魅力付け、「人間関係」についてはクラス間での良好な人間関係作りについて、柔軟に対応できるようタイムリーに運営メンバーから主体的に策が挙がるようにすることが必要である。

② 今後の改善方策

- ・資格試験に向けては、例年通りの実施ではなく、対象となる学生の技術・知識レベルに合わせて策を講じられるよう、定期的に教科会を実施し教科間で意見交換を行うなど、直前の対策ではなく、計画的に実施する。
- ・退学防止策として、学校やクラスが楽しくなるようなきっかけ作りを設定するため年間を通して小さな行事を行う。また、業界の魅力を感じられるように、キャリアデザインや就職対策の授業を活用して、外部講師（業界人）の特別授業を取り入れる。学生は学校に行きたくなくなる施策を検討し、実行する。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

* 田中延恵委員

人間関係や居心地の良さが勤務意欲に影響しており、孤独を感じると退社につながりやすい。
また、指導方法も「見て覚える」からマニュアル化やAI活用へと変化しており、現場の指導環境も変化している。

* 佐々木委員

高等学校では、入学後の初期段階の進路指導として、将来の職業をイメージしたうえで、そこから逆算して進路を考えていく取り組みが行われている。一方で、具体的な将来の目標や職業を明確に持てない生徒も多く、進路について考える段階から丁寧な対応が求められる。

(5)学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	3
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	3
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

- ・昨年度に引き続き、1学年においてはチーム担任制を導入し、学生の不安や相談体制は構築した。ただ、学生の悩みや相談内容を教職員間で随時共有と連携をする体制を整える必要がある。
- ・保護者との連携においては、保護者連絡デジタルツール「スクリレ」などを導入したものの、共有だけで一方通行となっている。個別最適化を意識し、更なる学校教育の理解や協力を促す必要性あり。

② 今後の改善方策

- ・全体に向けた発信だけではなく、タイムリーに出席状況の報告などができるため、連絡が繋がりにくいご家庭でも情報をお届けできるようにする。一方通行の解決にはならないため、引き続き個別に連携をとっていきたい。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

* 田中省早委員

専門学校のカリキュラムの中の「現場実習」や「サロンワーク」は、就職後の仕事内容を具体的にイメージでき、社会人になる前の心構えができた。入社してくるスタッフは様々なタイプがいるため、専門学校卒業後も就職後のつまずきに対する卒業生フォロー体制があるとよい。

* 田中延恵委員

先生との関係性が、学校全体の雰囲気づくりに大きく影響していると感じられる。安心して過ごせる環境や、相談しやすい雰囲気があることで、生徒一人ひとりの学校生活の満足度にもつながっているのではないかと。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

① 課題

・学生が安全に教育を受けられる環境であるか、日々のチェックが必要であり、教職員に関しては、防災の意識を高める研修の実施が必要である。また、日々の継続した取り組みが必要。

② 今後の改善方策

・初回のHRにおいて学生向けの避難訓練を実施したが、一度の実施にとどまらず、年間を通して計画的に防災教育を実施していく。また、教職員についても定期的な防災研修を行い、緊急時に迅速かつ適切な対応ができる体制を強化する。さらに、日常的な安全点検や振り返りを継続的に行い、学生が安心して学べる環境づくりを推進していく。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

＊ 田中省早委員

災害が起きた時に、従業員だけでなくお客様の安全を守ること使命のため、定期的に防災訓練を行うことは重要。避難経路や設備の確認をすることで、日常的な安全点検にもつながるのではないかと。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

- ・個々の学生の経済状況は多様であるため、画一的な対応では十分とは言えず、教職員一人ひとりの理解度や対応力に差が生じている部分が課題である。

② 今後の改善方策

- ・今年度は、その成果を継続・発展させるため、制度や社会情勢の動向を踏まえた情報更新を適宜行いながら、より実践的な相談対応力の向上を目指した研修を実施する。また、学生や保護者に対して分かりやすく適切な説明ができる体制のさらなる強化を図る。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

なし

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

2025 年度は第3期中期経営計画(2023 年度～2027 年度)の 3 年目にあたり、東京未来大学及び小田原短期大学の中期計画改定を反映し、第3期中期経営計画＜第 2.0 版＞を策定し年度開始時より適用した。中期経営計画及びその進捗状況はホームページ上に公開している

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

・前年度に引き続き、学生の SNS 利用が日常化する中で、個人情報の適切な取り扱いや情報発信に対する危機意識の低下が懸念される。また、軽率な投稿や不適切な情報共有に起因するトラブルの未然防止に向けた意識啓発が十分であるとは言い難く、より一層の指導体制の強化が求められる。

② 今後の改善方策

・ホームルーム等の教育活動を通じて、情報モラルおよび個人情報保護に関する指導を体系的かつ継続的に実施する。具体的には、実際の事例に基づいた指導内容を取り入れることで、学生の認識向上を図るとともに、主体的な判断力の育成に資する教育を推進する。また、教職員間における指導方針の共有及び研修の充実を図り、組織的かつ一貫性のある指導体制の構築を目指す。

③ 特記事項

・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

- ・学校での学びを外部でアウトプットできる機会を増やし、その活動を通して学生自身が成長を感じられるよう、積極的に設ける必要がある。
- ・教育訓練給付金制度の指定を受けているが、受講者に必要とされる周知が出来ていない可能性がある。

② 今後の改善方策

- ・前年度に引き続き、サロンワークにおいて、地域の方に学校教育や学生の技術に触れてもらえる機会を作り、好評いただいた。今年度は更に社会貢献や地域貢献につなげると同時に学生の学びの場を設ける。
- ・地域貢献の一つとして高等学校との連携を深め、専門学校での学びの理解の場を設ける。
- ・教育訓練給付金制度の指定を受けたため、引き続き実施に向けて周知を行う。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	2
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	2
学内で適切な体制が整備されているか	2

① 課題

- ・現状、留学生の受け入れを視野に入れた、国際交流を進めるという観点を持っていない。
- ただし、外国人観光客の多い地域でもあり、今後は外国の方とのコミュニケーションが取れるように準備をしておく必要がある。

② 今後の改善方策

- ・他地域の姉妹校の取り組みを活かして、留学生の受け入れに向けた取り組みに着手すること。

③ 特記事項

- ・特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

◆人材教育について

時代の移り変わりで色々なことが大きく変化していつているが、どんな時代になっても自分で目標を設定できるかどうか、社会に適応できるかどうかを分ける重要なポイントである。美容という、一対一でお客様に技術を提供する仕事を選んでいるので、その中で目標や夢を持てるようになればどんどんと技術も人間性も成長していく。学校でも、夢や目標を持てるような学びをこれまで以上に重視する必要がある。

学生指導についても、時代に合わせて変化があると思うが、学びに対する姿勢を伝えることや社会人としての在り方を伝えること、そして挑戦したいと思ったことに協力的な学校であることは今後も変えないまま人材の育成を行ってほしい。

◆学校の運営について

小中高と、不登校や色々な問題を抱える学生が増えてきている対策として、専門学校でもオンデマンド授業など新たな取り組みがはじまっているが、対策に追われて学生の美容業界への興味・関心が薄れてしまうのは本末転倒である。新たな取り組みを始めたとしても、美容業界や美容の職業に対する憧れを持てる機会が減ることがないように、注意が必要である。